

平成19年度

工業標準化表彰

平成19年10月15日

経済産業省



# 目 次

1. 工業標準化事業表彰 内閣総理大臣表彰	(個人 1名) .....	1
2. 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰 (個人)	(個人 23名) .....	2
3. 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰 (団体)	(団体 7団体) .....	7
4. 国際標準化貢献者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 21名) .....	9
5. 国際標準化奨励者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 13名) .....	13



# 平成19年度 工業標準化事業表彰 内閣総理大臣表彰受賞者

たかやなぎ せいいち

高柳 誠一 (元IEC(国際電気標準会議)会長)

## 【略歴】

1929年6月9日生、78歳

1953年 東工大応用物理学科卒、(株)東芝入社

1989年 東芝総合研究所所長

1990年 (株)東芝常務取締役(技術担当)

1992年 (株)東芝代表取締役副社長(技術担当)

1994年 (株)東芝常任顧問

1999年 イビデン(株)非常勤取締役(現職)

## 【主な功績】

1998年から2000年にはIEC(国際電気標準会議)の評議会の委員を務めた後、2001年からはIECの次期会長として会長代理を務め、3箇所のIEC地域センター(北米、アジア、南米)を開設し、これからの国際標準化において我が国との協力が期待されるアジア、中南米等の発展途上国がIEC活動に参画しやすい環境を整備。

また、2002年1月から2004年12月までの3年間はIEC会長を務め、IEC大会を2002年に北京、2004年にはソウルで開催させるとともに、カザフスタンやベトナムの参加を認めるなどアジア諸国の国際標準活動への拡大に寄与。さらに、電気・電子技術分野の国際標準化に多大な貢献をした専門家を対象としたIEC1906賞を創設。

その後、2005年から2006年末までIEC前会長として会長代理を務め、WSC(世界標準協力)の場を活用して、国際標準化3機関(ISO、IEC、ITU)の密接な連携体制を構築。

平成19年度 工業標準化事業表彰経済産業大臣表彰受賞者

個人

No	氏名	所属	主な功績
1	あおき よしお 夫 青木吉夫	全国生コンクリート工業組合連合会理事・相談役	2003年から4年間にわたり、全国生コンクリート工業組合連合会の会長として、生コンのJISをより一層環境に配慮した内容に改正するための委員会の立ち上げに協力したほか、工業標準化法の改正に伴う認証指針のJIS制定への支援、共同試験場のJIS Q 17025適合への支援をはじめ、生コン業界が新JISマーク制度に円滑に移行できるようにするための活動に関して同連合会が積極的に行うように組織運営を行うなど多大な貢献。
2	あきば えつこ 子 秋庭悦子	(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会常任理事・東日本支部長	国際標準化への消費者の意見反映の観点から、ISO/COPOLCO（消費者政策委員会）における議論に貢献するとともに、日本工業標準調査会消費者政策特別委員会及び消費生活技術専門委員会においてコンセンサス形成に寄与。更に、標準化への消費者参加促進の取り組みである「消費者の標準化参画促進セミナーWG」のリーダーを務め、消費者の標準化参加活動に多大な貢献。
3	いけだ ひろあき 明 池田宏	千葉大学大学院 工学研究科 建築・都市科学専攻都市環境システムコース教授	IEC/SC3C（機器・装置用図記号）国際幹事をはじめ、カラーマネジメントの国際議長、コンビナー、6件のプロジェクトリーダーを担当し国際標準化に貢献し、IECの電子化導入に際し技術的指導等が国際的に高く評価された。日本工業標準調査会の委員等や図記号の国内委員長等を務めJISの制定等や国際標準化活動を推進。さらに大学において国際標準化の講座を設け、電気・電子分野の標準化教材の開発、公開講座を行うなど標準化人材育成推進のために多大な貢献。
4	いし ぎきしゅん 俊 石崎	慶應義塾大学 環境情報学部 教授	1995年から日本工業標準調査会に参画し、特に2001年度より、情報技術専門委員会委員長として、関係者の意見を取りまとめて、400件以上のJISの制定、改正を推進。またISO/IEC JTC1（情報技術）の国内委員会である、JTC1技術委員会の委員長を務め、多岐にわたる技術の全体調整を行うとともに、我が国の国際標準化活動を主導するなど、情報技術分野における標準化活動に多大な貢献。
5	いちかわ まさひこ 彦 市川昌彦	(財)日本品質保証機構 マネジメントシステム 部門 計画室	ISO/TC207（環境マネジメント）において、国際的に普及しているISO14001（環境マネジメントシステム—要求事項及び利用の手引）の開発に、日本のエキスパートとして、ISO9001（品質マネジメントシステム—要求事項）との整合化等の観点から貢献。また、ISO14004（環境マネジメントシステム—原則、システム及び支援技法の一般指針）、ISO19011（品質及び/又は環境マネジメントシステム監査の指針）等の開発においても多大な貢献。

No	氏名	所属	主な功績
6	いちむらしんご 一 村 信 吾	(独)産業技術総合研究所 理事	ISO/TC201(表面化学分析)やTC229(ナノテクノロジー)のWGのコンビナーを務めるなど、国際標準化活動を積極的に推進。さらに、日本工業標準調査会国際専門委員会では臨時委員として活躍し、またTC201及びTC202の国内委員会では委員長の要職を務めるほか、TC229及びVAMAS(新材料と標準に関するベルサイユプロジェクト。1982年のベルサイユ・サミットで合意され先端技術製品の貿易や経済的交流を活性化することを目的として発足)の国内委員会では委員として精力的な活動を進めてきており、研究開発と一体化した標準化活動の推進に多大な貢献。
7	いまいしげお 今 井 茂 雄	(株)INAX総合技術研究所 プロジェクトマネージャー	JISZ2801(抗菌加工製品-抗菌性試験方法・抗菌効果)の原案作成委員会分科会委員として精力的に従事。また、当該JISを基礎とした国際規格の制定に関して、ISO/TC61/SC6におけるWGのプロジェクトリーダーとして日本の優れた技術に基づいた、日本発の抗菌性試験方法の国際規格化に多大な貢献。
8	おごういちろう 小 郷 一 郎	(財)日本船舶技術研究協会 基準・規格グループ国際戦略チーム チームリーダー	1999年から、ISO/TC8(船舶及び海洋技術)の国際幹事として活躍し、我が国の造船分野の国際標準化活動の発展に尽力したほか、ISO/TC188(スモールクラフト)に関しても我が国の代表メンバーとして多くの国際規格作成活動に参画し、日本の地位向上に多大な貢献。また、(財)日本船舶技術研究協会の標準部長として、同協会に係る標準化長期計画の策定、JIS原案の作成等船舶技術における標準化に多大な貢献。
9	おだたけぢ 小 田 哲 治	東京大学大学院 工学系研究科電気工学 専攻 教授	1999年から日本工業標準調査会電気部会長及び2001年からは電気技術専門委員会委員長を務め、約960件もの電気技術分野のJIS規格制定、改正に貢献。更に、IEC/TC1(用語)及びIEC/TC25(量および単位並びにそれらの文字記号)の両国内委員長を1999年から務め、日本の意見をIEC規格に反映させるなど多大な貢献。
10	からつおさむ 唐 津 治 夢	SRIインターナショナル 日本支社 日本代表	電子部品・機器の設計・試験等の基幹技術であるデザインオートメーション技術における世界の第一人者として、IEC/TC93(デザインオートメーション)設立前より、日・米の電子部品・機器業界団体など国内・国際場で標準化活動を推進し、TC93設立に尽力。現在IEC/TC93議長・WGコンビナーとして、進歩の早い電子分野で、業界・地域標準の国際標準化手順であるIECとのダブルロゴ標準策定を推進し、時代を先取りした国際標準化に多大な貢献。
11	しばたかずお 柴 田 和 男	(社)日本電機工業会 次長	30年以上、家電機器に関わる国際規格・国内規格に携わるなかで、IEC/SC59E(電気アイロンの性能)の国際幹事を務めるとともに、国際規格への日本の立場の反映やJIS作成を通じた国際規格普及のみならず、国内審議体制やアジア諸国への国際規格審議参加の働きかけなど、規格における時代の変化に対応して積極的に活動するなど国際標準化に多大な貢献。

No	氏名	所属	主な功績
12	ひらかわ しゅうじ 平川 秀治	(株)東芝 技術企画室 主監	IEC/TC100 (オーディオ・ビデオ・マルチメディアシステム及び機器) 国際幹事に2004年に就任以来、迅速な運営、的確な判断が求められる会議の推進役として尽力。また、国内委員会では日本発の国際規格提案の開発に尽力することで、国際標準の橋渡し役としても活躍。さらに、IEC/ITUの関係円滑化に貢献するとともに、ISO/IEC JTC1及びIEC関連SCとの調整等、国際標準化機関の枠を超えた幅広い活動に多大な貢献。
13	ますだ たけお 増田 岳夫	(財)光産業技術振興協会 標準化室長	IEC/TC76 (レーザ機器の安全性) 運営諮問委員会議長として、LEDの安全性に関する国際標準化に尽力。また、ISO/TC172/SC9/WG7 (レーザ以外の電気光学システム) 事務局として、日本独自のマイクロレンズアレイ及び回折光学の国際規格化を実現。その他、国際会議の日本誘致に努め、ISO/TC172/SC9及びIEC/TC76会議をそれぞれ3回、我が国での開催を実現するとともに、JICA研修の講師として、発展途上国の国際標準化活動の推進に積極的に協力するなど国際標準化に多大な貢献。
14	まつお ようたろう 松尾 陽太郎	東京工業大学大学院 理工学研究科 教授	ISO/TC206 (ファインセラミックス) への提案案件のプロジェクトリーダーとして世界をリードする日本の技術分野の一つであるファインセラミックスに関する国際標準化を積極的に推進。また、2001年度から2005年度まで窯業技術専門委員会委員長として窯業分野の多数のJIS原案審議等に貢献するとともに、JIS原案作成団体である(社)日本ファインセラミックス協会の標準化委員会委員として、多くのJIS原案の作成に多大な貢献。
15	まつした てるお 松 下 照 男	九州工業大学 情報工学部 教授	IEC/TC90 (超電導) /WG1 (用語) のコンビナー及び同WG4 (残留抵抗試験方法) のコンビナーとして、ニオブ・チタン及びニオブ3すず複合超電導導体の残留抵抗比試験方法の標準化を進めるとともに、新たな分野である高温超電導材料並びに超電導製品にかかわるIEC規格の開発に尽力。また、IEC規格に整合したJISの制定に貢献し、従来の超電導関連産業の発展のみならず新たな高温超電導関連産業の市場導入という経済波及効果に多大な貢献。
16	みうら しげたか 三浦 重 孝	サクラ精機(株) 顧問	ISO/TC210 (医療用具の品質管理と関連する一般事項) において、日本のエキスパートとして、ISO13485 (医療機器—品質マネジメントシステム—規制目的のための要求事項) 等の開発を国際的にリードするとともに、国内の関係する法令への反映、厚生労働大臣と経済産業大臣との共管としてのJIS化等に貢献。また、TC176 (品質管理及び品質保証) においてのISO9001等の開発に貢献するとともに、TC34 (食品) においてのISO22000等の開発にも多大な貢献。



No	氏名	所属	主な功績
17	三木 すすけ いち	松下電器産業(株) コーポレートR&D技術 渉外客員	IECの政策立案・実行を行う機関であるCB（評議会）の委員として、日本の産業界を代表してIECの運営方針に寄与。特に2006年に策定されたIEC活動の中長期目標である「マスタープラン2006」の策定に当たって、規格の国際市場性を適切に盛り込む等の貢献。また、MPEG4、SDカード、ブルーレイディスク等デジタル技術の標準化の推進にも多大な貢献。
18	みつ い だし 正	TDK(株) アプリケーションセン ター 主査	2002年からIEC/TC51（磁性部品及びフェライト材料）国際幹事を務めており、国際標準化活動に尽力。また、我が国が技術的に世界をリードするフェライトコア、チップインダクタ及びノイズ制御シートの規格開発に関しても、国内審議段階から積極的に推進しており、日本発の規格提案にも携わるとともに、全般的にIECでの公平な審議促進にも貢献。さらに、国際規格策定後におけるJISの原案策定にも積極的に関与するなど国際標準化に多大な貢献。
19	みや ざわ あきら 彰	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機 構国立情報学研究所 教授	言語学の文学論と情報処理のコード化理論を結び付け、多様な異体字を持つ漢字の符号化文字集合の整備に向けた国際的な字体の統合化ルール策定に貢献するとともに、また膨大な情報を有益に活用するための書誌情報の標準化に尽力。特にISO/TC46（情報とドキュメンテーション）では国内委員会の委員長を務め、当該分野の国際標準化に尽力。さらに情報技術専門委員会委員として、情報技術分野のJISの整備に多大な貢献。
20	やま うち しげる 繁	早稲田大学 人間科学学術院 特任教授	日本工業標準調査会の高齢者・障害者専門委員会の委員長として、電動介護用ベッドなどのJIS作成など、長年、当該分野の工業標準化の発展・改善に貢献。また、ISO/TC173（福祉用具）及び同SC2（用語と分類）に、我が国代表として国際標準化に多大な貢献。
21	やま だ はじめ 肇	東洋大学 経済学部 教授	世界に先駆けて制定された情報アクセシビリティに関するJIS原案作成において中心的な役割を果たすと同時に、そのJISの国際標準化に際して、ISO/TC159/SC4（人間工学/人間とシステムのインタラクション）のWG6（人間中心設計）のプロジェクトエディターとして、国際規格制定に尽力するなど、当該分野の標準化に多大な貢献。また、JISC/CENELEC意見交換会においてアクセシビリティWGの議長を担当し、国際規格の普及に多大な貢献。
22	やま もと たか し 隆 司	東京農工大学大学院 共生科学技術研究院 教授	ISO/TC123（滑り軸受）/SC6（用語と共通事項）の新規設置を推進して幹事国引受に貢献するとともに、我が国提案の5規格の原案作成に積極的に取り組み、自らも3規格のプロジェクトリーダーを担当。また、(社)日本機械学会において、国際標準化活動等を統括する標準事業委員会の委員長として、産業界の意識向上を図りながら標準化活動を推進。さらに機械分野における大学の標準教育プログラム開発を行い、標準化の人材育成推進に多大な貢献。

No	氏名	所属	主な功績
23	和田 ひとし 和 田 ひとし	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授	IEC/TC90 (超電導) / WG3 (臨界電流) の国際コンビナーとして、VAMAS (新材料と標準に関するベルサイユプロジェクト) における研究活動と連携しながら IEC 規格の制定に尽力。また、臨界電流に関する国内委員会の委員長として新技術分野である超電導技術の標準化に積極的に取り組み、超電導関連用語及びビスマス (Bi) 系酸化物超電導線の臨界電流試験方法の JIS 制定に関与するなど、高温超電導分野の標準化に多大な貢献。

団体

1	日本光学硝子工業会	ISO/TC172(光学及びフォトンクス)では、我が国とドイツが主導して国際標準化を進めてきたが、TC172における我が国の幹事国引受けは皆無であった。2006年に、TC172での日本の橋頭堡を築くため、SC3(光学材料及び構成物)の幹事国に当該団体が立候補し、我が国が幹事国を獲得。この幹事国獲得により、TC172の運営委員会にも出席できるようになり、今後戦略的に国際提案を進めていくことが期待されるなど、当該分野の国際標準化の発展に多大な貢献。
2	(社)日本工作機械工業会	1951年の設立以来、現在まで56年間にわたり、工作機械に関するJIS規格の原案作成等の標準化事業に関与し、工作機械に関する工業標準化に多大な貢献。また、1984年からはISO/TC39(工作機械)の国内審議団体として、これまでに100規格以上のISO原案の作成、制定、改正等に取り組んできた功績とともに、ISO/TC184/SC1(産業オートメーション/機械及び装置の制御)の国内審議団体として、我が国工作機械産業分野の国際競争力の向上に多大な貢献。
3	(社)日本産業機械工業会	ISO/TC111(巻上げ用リンクチェーン、フック及び附属品)においては、我が国は国際規格の適正化の観点から、試験方法等に関し標準化に参加。2006年に当該TCに国内審議団体である当該団体が立候補し、我が国が幹事国を獲得。日本の国際標準化における貢献が一層TC内で認められるところとなり他国の妥協も引き出せるようになるとともに、今後一層試験方法の適正化が進められることが期待されてなど、当該分野の国際標準化の発展に多大な貢献。
4	日本電信電話株式会社	情報技術分野を始め、電子技術分野において、多くの日本工業規格の原案作成委員会等に積極的に参加し、これら分野における標準化の推進に多大な貢献。また、ISO/IEC JTC1/SC29(音声、画像、マルチメディア、ハイパーメディア情報符号化)専門委員会の委員長を始め、多くの国内委員会に多くの人材を輩出するなど、国際標準化に積極的に参画。さらに、国際電気通信連合(ITU)等の関連する標準化活動にも積極的に参画し、当該分野における標準化を推進。
5	日本プラスチック工業連盟	軽量・高強度の特性を生かし、航空機の構造材料等に利用され、我が国企業が市場の70%を占める炭素繊維及び同繊維を強化材としたプラスチックの国際標準化を議論しているISO/TC61(プラスチック)/SC13(複合材料及び強化用繊維)の幹事国に、国内審議団体である当該団体が2005年に立候補し、我が国が幹事国及び議長を獲得。これによって我が国提案の炭素繊維のリサイクル関連新規提案が採用されるなど停滞していたSCが活性化し、当該分野の国際標準化の発展に多大な貢献。
6	(社)日本包装技術協会	ISO/TC122(包装技術)においては、我が国は国際規格適正化の観点から、包装性能の試験方法や包装を初めとする貨物の自動認識に関し標準化に参加。前任のTC幹事国の業務停滞により、規格化業務の遅延が問題となっていたが、2006年に国内審議団体である当該団体が立候補し、我が国が幹事国を獲得。この幹事国獲得により、遅延していた規格化作業が活性化するとともに、今後包装の環境配慮や高齢者・障害者配慮に関する国際提案を進めることにより、当該分野の国際標準化の発展に多大な貢献。

7	(社)日本溶接協会	<p>1951年から延べ509件に及ぶJISの制定・改正の原案作成に尽力。国際分野では、ISO/TC44（溶接）及びIEC/TC26（電気溶接）の国内審議団体として関連学協会と連携して日本の技術を反映するように国際標準化に関与。さらに、米国との連携を図りISO規格に日米・欧共存方式を導入することによってCEN（欧州規格委員会）主導の国際標準化活動の流れを変革することができた。また、アジア諸国への技術指導を通じて連携強化を図るなど、グローバルな活動をしてきており、日本の溶接分野における標準化に多大な貢献。</p>
---	-----------	--

平成19年度 国際標準化貢献者表彰(産業技術環境局長表彰)受賞者

No	氏名	所属	主な功績
1	伊藤 大 とう はち だい 藤 八 大	(株)東芝 主幹	IEC/TC95/MT1 (IEV447保護リレー用語集)のコンビナーとして国際規格化に積極的に参画。また、IEC 60255-26(EMC規格)の改正作業における日本提案の採用に当たって、強力な指導力を発揮。さらに同TCのWG等の国際会議にも日本代表として7年間出席するなど積極的に参加するとともに、IEC TC94(補助継電器)及びSB1(送電及び配電)国内委員として国内意見の取りまとめにも参加するなど国際標準化活動の強化に貢献。
2	大賀 寿郎 おお が じゅ ろう 大 賀 壽 郎	芝浦工業大学 工学部 教授	IEC/TC100(オーディオ・ビデオ・マルチメディアシステム及び機器)に改組以前の旧TC84の時代から、産業界の立場でコンビナーやプロジェクトリーダーとして国際標準化活動に積極的に参画。また、TC100設立に貢献するとともに、学界に移籍後は標準化活動と並行し、教育者として後継者育成にも尽力。さらに国内においてはJIS原案作成委員会委員長を歴任するなど国際標準化活動の強化に貢献。
3	大島 寛 おお しま ひろし 大 島 寛	ニチコン(株) 主任技師	IEC/TC40(電子機器用コンデンサ及び抵抗器)、TC91(電子実装技術)関係の国際会議への出席、意見提案等積極的に参画。特に電気二重槽コンデンサや導電性高分子電解コンデンサ(TC40)及び鉛フリーはんだ実装の評価試験方法(TC91)について、プロジェクトリーダーとして国際提案・審議まで一貫して国際規格のとりまとめに貢献。また、これらの国際規格のJIS化に関しても積極的に参加するなど国内外の国際標準化活動の強化に貢献。
4	太田 守重 おお た もり じゅ 太 田 守 重	国際航業(株) 技術センター フェロ 一・室長	IS/TC211(地理情報)において我が国のエキスパートとして国際会議の出席や回答原案の作成、地理情報の規格に関する国際コンソーシアムとの連携などに携わり、中心的な人材として活躍。地理情報分野では、地空間情報の高度利用に関する推進が法制化され、電子政府にも地理情報システムの標準化が推進される中、国際標準化の進展によりインターネットを利用した民間における地理情報システムサービス等の普及など国際標準化活動の強化に貢献。
5	大村 高慶 おお むら たか よし 大 村 高 慶	ファーンズエンジニアリ ング(株) 管理部長	ISO/TC195(建設用機械及び装置)におけるコンクリート機械の国際標準化に積極的に参加し、SC1(コンクリート施工用機械)の新設、我が国の幹事国・国際議長引受けに貢献するとともに、SC1国際議長として我が国提案による多数の国際規格の開発を推進。特に、建設機械の安全要求事項や手腕振動に関する国際規格の開発を進めるなど、人の安全・健康を守るための国際標準化活動の強化に貢献。

No	氏名	所属	主な功績
6	木村 けん きむら けん	三菱電機(株) 主任研究員	IEC/TC98(絶縁システムの評価)及びIEC/TC112(絶縁材料システム評価)の国内幹事を10年間務め、国際標準化に積極的に貢献。2004年EMC及びサージ絶縁及びIEC規格に関する国際ワークショップ(KIWIS)を企画・主催し、IEC規格の重要さを国内外に認識させ、2006年からは、IEC/TC112(電気絶縁材料とシステムの評価と認定)のWG3のプロジェクトリーダーを務めるなど国際標準化の強化に貢献。
7	木村 としこ きむら としこ	社団法人情報処理学会情報規格調査会 マネージャ補佐	ISO/IEC JTC1/SC2(情報技術/符号化文字集合)の国際幹事を1997年から、SC23(デジタル蓄積媒体)の国際幹事を1993年から務めるとともに、これまでSC15(媒体の論理フォーマット:1996年解散)の国際幹事も務めてきており、国際規格化の審議の円滑な運営に務めるなど、国際標準化活動において貢献。また、1990年からJTC1国内委員会の事務局として国際標準化活動の強化に貢献。
8	日下 よしぞう くさ か よしぞう	住友金属工業(株) 鋼管カンパニー 鋼管 技術部 部長	ISO/TC67(石油及び天然ガス工業用材料及び装置)/SC5(油井管)の国際議長として、油井用鋼管の国際規格作成に係わる国際会議を主導し、多数の国際規格の作成に貢献。特に、ISO規格とAPI I(米国石油協会)規格との統一化の実現に向け、APIや上位組織であるISO/TC67との交渉を行うなどの努力によって統一を実現するなど国際標準化活動の強化に貢献。
9	山崎 としひろ こみやま としひろ	日本電気株式会社 ソフトウェアエンジニアリング本部 統括マネージャー	ISO/IEC JTC1/SC7/WG6(ソフトウェア技術/評価とメトリクス)の国際セクレタリを1992年から務め、ソフトウェア製品の品質評価における国際規格の適用を容易にするため、既存規格も含めた規格体系の見直し・整備等を2004年に提案し、その提案に基づいて現在ISO/IEC 25000(ソフトウェア製品の品質評価)規格群に関する開発プロジェクトが進行しているなど、国際標準化活動の強化に貢献。
10	阪口 しゅうじ さか ぐち しゅうじ	(独)産業技術総合研究所 中部産学官連携センター 総括主幹	ISO/TC207(ファインセラミックス)設立当初から積極的に参加しており、90年代には硬さ試験等に関するWGのコンビナーを引き受け、2005年からはTC206の国際幹事に就任するなど国際標準化活動の要職を歴任。またVAMAS(新材料と標準に関するベルサイユプロジェクト)においても長年にわたって活動を続けており、研究開発と一体となった国際標準化を推進。さらに国内委員会にも委員として参画するなど国際標準化活動の強化に貢献。
11	田邊 しげる たな べ しげる	津山工業高等専門学校 教授	IEC/SC22F(送配電システム用パワーエレクトロニクス)のMT9(サイリスタバルブ試験規格)のコンビナーを2000年から務めており国際規格化を積極的に主導し尽力。また2001年から4年間SC22F国内委員会幹事を務め、さらに2005年からは国内委員長を務め、我が国の技術的意見を国際規格に反映させることに尽力するなど国際標準化活動の強化に貢献。

No	氏名	所属	主な功績
12	なかのよしのひこ 中野義彦	沖電気(株) 主幹技術者	ISO/TC173/SC4の(人間とシステムのインタラクション)のWGのコンビナーを務めるとともに、1993年からSC4のエキスパートとして活躍し、日本から提案したISO1503(空間的運動方向の設計における人間工学的要求事項)の改訂、JIS X 8341-1(高齢者・障害者等配慮設計指針-情報通信における機器、ソフトウェア、サービス-第1部:共通指針)にも積極的に参加するなど国際標準化活動の強化に貢献。
13	にしやまかずお夫 西山和夫	ソニー(株) 半導体事業本部 主幹技師	IEC/TC91(電子実装技術)の国際幹事を平成17年から務め、同TCにおける円滑な規格開発を推進するほか、電子実装技術に関連する電子部品及び半導体の技術や環境への影響に迅速に対応するなど、我が国から提案した規格の国際標準化に貢献。また、関係する多くのTC/SCとの調整や連携にも尽力し、IEC/SC47D(半導体パッケージ)にも積極的に参画するなど国際標準化活動の強化に貢献。
14	はまだけんじろう 濱田健次郎	安川コントロール(株) 事業部長	IEC/TC94(補助継電器)/WG10のコンビナーとして、産業用制御安全機器に関する新規作業項目を提案し、その作業部会WG10での規格作成を主導。また、TC94国内委員会の委員長として、リードスイッチだけでなく、リレーの基本規格、新規提案を予定している電子カウンタ等の規格策定にも積極的に参画するなど国際標準化活動の強化に貢献。
15	ふじい たかあき 藤井 隆 彰	(株)本田技術研究所 二輪開発センター 主任研究員	ISO/TC22(自動車)/SC22(モーターサイクル)及びSC23(モペット)の排ガスや燃費に関する二つのWGのコンビナーとして、多くの我が国提案の国際標準の制定に中心的役割を果たすとともに、アジア太平洋地域への研修の講師を務め、アジアの仲間作りを積極的に進めながら自動車分野における国際標準化を円滑に進めるなど国際標準化活動の強化に貢献。
16	ふるた かずよし 古田 一 吉	セイコーインスツル(株) 技術本部インキュベーション 新事業企画推進部 部長	ISO/TC229(ナノテクノロジー)における計測等に関する国際標準化活動に我が国の代表者として積極的に参画し、日本主導の国際規格整備を進めることに貢献。また、マイクロマシンに関するNEDOプロジェクトに参加して研究開発と一体となった標準化活動を進めるとともに、IEC/TC47(半導体デバイス)にも積極的に参画するなど国際標準化活動の強化に貢献。
17	みずま たけし 水間 毅	(独)交通安全環境研究所 交通システム研究領域 領域長・上席研究員	IEC/TC9(鉄道電気設備)において都市交通システムの自動運転の安全性要件に関する国際規格の整備を進めるに当たり、我が国の法律である省令に関する記述を採用させ、また我が国で実績のある高信頼性技術や腰高式ホームドアなどの経済効果大きい技術の採用を積極的に提案するなど国際標準化活動の強化に貢献。

No	氏名	所属	主な功績
18	む しゃ よし のり 武 者 良 憲	(財)富徳会 常務理事	ISO/TC106(歯科)/SC7(オーラルケア用品)の国際幹事に1995年から務めており、同SCを精力的に運営。この間、日本提案の2件を含む10件の国際規格の開発を主導し、それまで活動が活発でなかった同SCの活動を、日本主導で活発に運営。また、医療業界における国際標準化への認識を高めるなど国際標準化活動の強化に貢献。
19	や ち だ ます よし 谷 内 田 益 義	国立大学法人 東京工業 大学 工学部 客員准教授	ISO/IEC JTC1/SC17(情報技術/識別カード及び附属装置)の活動の中で、日本発の標準として多目的ICカード環境のアプリケーション管理コマンド(ISO/IEC7816-13)の規格化に際しエディタとして各国と協調しながらも、日本として必要な文字コード等の仕様をまとめるなど国際標準化活動の強化に貢献。
20	よこ やま ひろし 横 山 宏	(株)日立製作所 主管技師長	IEC/TC105/WG9コンビナーとして規格開発にリーダーシップを発揮するとともに、マイクロ燃料電池性能試験法を国際提案。また、環境分野では、TC207の国内委員会である環境管理規格審議委員会の委員を歴任し、環境パフォーマンス評価小委員会委員長を務め、積極的に貢献。ISO TC207 SC4(環境パフォーマンス評価)の日本エキスパートとして参加し、ISO 14031(環境マネジメント-環境パフォーマンス評価-指針)等の開発に積極的に参画するなど国際標準化活動の強化に貢献。
21	よし おか とし ひろ 吉 岡 稔 弘	(株)A I総研 代表取締役社長	ISO/IEC JTC1/SC31(情報技術/自動識別及びデータ取得技術)WG2(データ構造)のコンビナーとして、日本提案及び、その後の各種ユニーク識別子提案を短期間で規格として成立させるなど、ICタグのサプライチェーンを通じた利活用に必要となる商品識別コードのユニーク識別子の体系を構築し国際標準化を推進し、グローバルな市場での利活用環境を整備するなど国際標準化活動の強化に貢献。



平成19年度 国際標準化奨励者表彰(産業技術環境局長表彰)受賞者

No	氏名	所属	主な功績
1	いけ だ あゆみ 池 田 あゆみ	エスペック(株) 技術開発本部 主事	IEC/TC110(フラットパネルディスプレイ(FPD))/WG5(有機ELディスプレイ)のエキスパート兼コ・プロジェクトリーダー(IEC62341-5)、またWG4(プラズマディスプレイ)のエキスパートとして、両分野の特に環境試験規格の審議、文書作成を行い、国際の場においてリーダー的存在として、日本の意見反映に貢献。さらに、環境試験規格のみならず、FDP分野全般の国際標準化に貢献。
2	い とう かず ひで 伊 藤 かず ひで	九州大学大学院 総合理工学研究院 准教授	ISO/TC146(大気の状態)/SC6(屋内空気)において、建材の空気汚染の評価方法を検討する二つのWGにエキスパートとして参画し、積極的に新規作業項目を提案するなど、我が国主導の国際標準化を進めることに貢献。また、建材からの揮発性有機化合物等の放散量の評価方法を開発し標準化するためのプロジェクトの推進に重要な役割を担い、研究開発と標準化を一体的に進めると国際標準化に貢献。
3	お かわ すずむ 小 川 すずむ	(社)日本電機工業会 担当課長	開閉制御装置、回転電気機械などの重電・産業機器の技術検討・標準化を担当し、国内委員会幹事として、委員会運営を実施し、日本意見を国際標準化に反映することに尽力。 IEC/TC88風力発電システムの国際標準化とJIS化を積極的に進め、我が国特有の問題の冬季雷や台風への対処のため、データ分析、情報集約、意見交換、ドキュメント作成するための方向付けを提案し、国内検討会の結成にリーダーシップを発揮し尽力。
4	かわ たか じゅん いち 川 高 順 いち	日本電信電話(株) NTTアクセスサービス システム研究所 研究主任	IEC/TC86/SC86A(光ファイバ及び光ファイバケーブル)のエキスパートとして、新規規格開発提案やISO/IEC JTC1/SC25(情報機器間の相互接続)、IEC TC7(架空電気導体)などとの意見調整を実施するとともに、TC86国内委員会の事務局として、委員会の運営、他国内委員会との意見調整、日本での国際会合招致活動を推進しており、日本の国際標準化活動への発言力強化に貢献。
5	くる み さわ あき お 胡 桃 澤 あき お	(社)産業環境管理協会	ISO/TC146/SC1(固定発生源大気の状態)の事務局として、日本提案の「排ガスサンプリング」プロジェクトのコンビナーを支援。また、TC207(環境マネジメント)に対して「環境管理会計」のNWIP(新規作業項目提案)の検討事務局も務めるなど国際標準化に貢献。
6	さき こ まさ すみ 笹 子 雅 すみ	(社)日本電機工業会 主任	IEC/TC59(家電製品の性能)及びTC61(家電製品の安全)の分野で、エキスパートとして炊飯器や洗濯機などの日本独特の製品にかかる性能・安全とその試験方法を積極的に提案し、国際規格を戦略的に活用する政策に寄与。同分野でのIEC整合化JIS作成についても携わり、国内強制法規でのIEC整合化電気安全JIS引用の環境整備にも関与するなど国際標準化に貢献。

No	氏名	所属	主な功績
7	たなかひろのり 田中宏典	松下電器産業(株) 主任技師	IEC/TC110(フラットパネルディスプレイ(FPD))分野のエキスパートとして標準化を推進。この標準化により、FPD製造業者に対しては製品使用条件・環境条件・仕様書決定等にかかる開発コストの削減、また業界として顧客の製品機能比較や保証項目の明確化など顧客信頼性の向上に寄与。またTC110の国際副幹事・国内幹事を務め、FPD分野で主導的な立場である日本の発言力向上に寄与するなど国際標準化に貢献。
8	なかになわちえ 中庭知重	(社)産業環境管理協会 主査	ISO/TC207(環境マネジメント)/SC3(環境ラベル)において、エキスパートとして積極的に参画し、エコリーフ環境ラベルを始めとしたISO環境ラベルの基準として使用されているISO14025(環境ラベル及び宣言タイプⅢ環境宣言)の開発に当たって、我が国の意向を国際規格に盛り込むとともに、国際規格の開発をリードするなど国際標準化に貢献。
9	なりたまさみ 成田正己	(株)マキタ 係長	電動工具のエキスパートとしてIEC/SC61F(電動工具の安全)において、130V以下の工具や直径の小さいグラインダなど日本の電動工具事情を踏まえた提案を積極的に行っており、国際規格を戦略的に活用する政策に寄与。また、併せてIEC整合化JIS案作成の実務を行っており、電動工具安全分野でのJISの政策的意義の高揚に貢献。
10	みやじあつこ 宮地充子	北陸先端科学技術大学院 大学 准教授	ISO/IEC JTC1/SC27(セキュリティ技術)WG2(セキュリティ技術とメカニズム)で、1999年から情報セキュリティ技術の国際規格のプロジェクトエディタを務める。情報セキュリティ技術の中での暗号化の分野は、各国が自国の暗号技術を国際標準として認めさせるために非常に力を入れており、その中でエディタとして参加し、日本の情報セキュリティ技術の国際標準化を推進し、その国際的地位向上を図るなど国際標準化に貢献。
11	もりさだあきら 森貞晃	日本信号(株) 研究センター安全 研究室	IEC/TC9(鉄道電気設備)の鉄道用安全関連電子システムや列車検知システムに関するプロジェクトチームにエキスパートとして参画し、日本で広く用いられている信頼性の高い鉄道信号用リレーを国際規格に盛り込み、また、自動運転鉄道システムの安全に関する規格審議において、危険源分析の専門家会議に参画する等、我が国の鉄道システム技術を国際規格に反映させるなど国際標準化に貢献。
12	やまきさきのぶゆき 山崎信行	慶應義塾大学 理工学部 准教授	ISO/IEC JTC1/SC25(情報機器間相互接続)に、エキスパートとして参加し、これまでの研究開発の成果を踏まえて、ロボットなどの分散処理システムに用いるリアルタイム通信規格であるレスポンスリンクについて国際提案を行うとともに、円滑な国際規格化に向けた標準化活動に尽力するなど、我が国が優位性を持つ技術分野での産学官連携による国際標準化に貢献。

No	氏名	所属	主な功績
13	よね たに ただ ふみ 米 谷 理 史	(社)日本工作機械工業会	ISO/TC39（工作機械）及びISO/TC184/SC1（産業オートメーションシステム及びインテグレーション/機械及び装置の制御）の国内審議団体である(社)日本工作機械工業会の国内標準化関連委員会の事務局として、1998年以来工作機械に関する国際標準化活動のサポート業務に従事しており、その間、工作機械分野で日本が担当している二つのコンビナーを補佐するなど、国際標準化に貢献。